

科目名	成人・老年看護方法VI (臨床技術) Adult・Gerontological Nursing VI		担当教員 (研究室番号)	関根由紀 (504) 田端真 (308) 長谷川智之 (302) 井上千彰 (308) 岡根利津 (308) 石橋信江 (303) 清水律子 (506)	教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次 前期	科目 区分	専門科目・生涯看護学	選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
										オープン クラス	否
科目 目的	成人期および老年期にある対象者の生命危機や療養生活を支援するために必要な看護技術と、それに伴う態度を身に付ける。 また、対象者の病態や状態に応じた適切なフィジカルアセスメント能力を習得する。										
ディ ア グ ノ ス ティ シ ス (DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)									
	関連するDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。 (姿勢・態度) B 人々の生活に根差した看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 嚥下機能が低下している人の嚥下評価および経管栄養法を受けている人への援助を実施することができる。 ドレーン管理について理解することができる。 呼吸療法を必要とする人の体位ドレナージ、吸引の方法と留意点の理解および酸素吸入療法を実施できる。 輸液療法を理解し、点滴を留置している患者の寝衣交換を実施することができる。 一次救命処置(BLS)および中枢神経系のフィジカルアセスメントを実施することができる。 術後の全身状態の観察について留意点を理解し、実施することができる。 対象に適した方法でフィジカルイグザミネーションを行い、アセスメントすることができる。 										
成績評価方法 (基準)	筆記試験63%、事前課題37%										
再試験の有無と 基準等	科目の可否結果で不合格となった者は、当該学生からの申請により再試験を実施する。 再試験は、筆記試験とする。										
教科書	基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 新訂版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス インターメディカ (1年次使用テキスト)										
参考書等	適宜紹介する。										
学生の主体性を伸ばすた めの教育方法と学生への 期待	本科目は、成人期および老年期の看護において必要な臨床技術と事例に応じたフィジカルアセスメントを習得し、看護実践力を高めます。演習をとおして対象となる人の心身の状態に適した看護を考え、看護専門職者として自律と責任ある態度も身に付けてください。履修生の主体性を期待します。										
備考	先修条件：基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護実践の思考、成人看護学概論、老年看護学概論、成人・老年看護方法Ⅰ～Ⅲの単位を修得している。										
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	オリエンテーション 嚥下障害のある人への援助 嚥下機能評価と食事介助			嚥下障害のある人に対する嚥下機能の評価および食事介助を学ぶ。				田端 他	講義		
2回	嚥下障害のある人への援助 経管栄養法			嚥下障害により経管栄養法を受ける人の観察、栄養注入方法を学ぶ。				田端 他	演習		
3回	嚥下障害のある人への援助 経管栄養法			嚥下障害により経管栄養法を受ける人の観察、栄養注入方法を学ぶ。				田端 他	演習		
4回	ドレーン管理を必要とする人への看護			頭部、胸部、腹部に挿入されるドレーン留置中の観察と留意点について学ぶ。				長谷川 他	講義		
5回	呼吸療法を必要とする人への看護			体位ドレナージおよび口腔内・鼻腔内・気管内吸引の方法と観察を学ぶ。				関根 他	講義		
6回	酸素吸入療法を必要とする人への援助			酸素吸入療法の実施および療法中の観察、呼吸器系フィジカルアセスメントを学ぶ。				関根 他	演習		
7回	酸素吸入療法を必要とする人への援助			酸素吸入療法の実施および療法中の観察、呼吸器系フィジカルアセスメントを学ぶ。				関根 他	演習		
8回	輸液療法を必要とする人への看護			輸液療法の概要、輸液ポンプおよびシリンジポンプの基本的な操作、観察、留意点を学ぶ。				長谷川 他	講義		
9回	点滴を留置している患者の寝衣交換			点滴を留置している人の寝衣交換の方法と留意点を学ぶ。				長谷川 他	演習		
10回	点滴を留置している患者の寝衣交換			点滴を留置している人の寝衣交換の方法と留意点を学ぶ。				長谷川 他	演習		

11回	一次救命処置が必要な人への援助	意識状態の確認方法、胸部圧迫、気道確保、人工呼吸の方法を学ぶ。また、自動体外式除細動器（AED）による除細動の方法と留意点を学ぶ。	田端 他	演習
12回	一次救命処置が必要な人への援助	事例をととして、中枢神経系フィジカルアセスメントを学ぶ。	田端 他	演習
13回	術後の全身状態の観察	全身麻酔による消化器手術を受けた人の術後1日目の全身状態の観察について学ぶ。	岡根 他	講義
14回	術後の全身状態の観察	全身麻酔による消化器手術を受けた人の術後1日目の全身状態の観察方法と消化器・循環器系フィジカルアセスメントを学ぶ。	井上 他	演習
15回	術後の全身状態の観察	全身麻酔による消化器手術を受けた人の術後1日目の全身状態の観察方法と消化器・循環器系フィジカルアセスメントを学ぶ。	井上 他	演習

学 習 課 題

演習は、事前課題および自己課題に取り組み臨む。以下に課題の概要を記載するが、毎回の演習終了時に次回の課題の詳細を提示する。事前課題に対する内容以外にも関連する事柄や疑問が生じた内容についても調べて、十分な自己学習がされたレポートを期待する。課題レポートはWebClassに提出し、各課題のルーブリック評価表における評価項目に沿って評価する。課題およびルーブリック評価表については、スケジュールに沿って「Web Class」にアップロードする。

- 1、2、3回目課題（事前）：嚥下機能評価および経鼻経管栄養の方法 【評価対象：レポート】
- 4回目課題（事後）：ドレーンに異常所見が認められた際の対応について（講義内でのグループワークの成果物をレポートとみなす） 【評価対象：レポート】
- 5回目課題（事前）：体位ドレナージの目的と方法および鼻腔内、口腔内、気管内吸引の方法と留意点、観察 【自己学習】
- 6、7回目課題（事前）：酸素療法に使用するデバイスと各酸素濃度、酸素療法中の観察。酸素ポンベの残量計算方法、呼吸器系フィジカルアセスメント 【評価対象：レポート】
- 8回目課題（事前）：輸液療法の目的および方法、輸液ポンプとシリンジポンプの使用法、留意点 【評価対象：レポート】
- 9、10回目課題（事前）：点滴を留置している人の寝衣交換の方法と留意点 【評価対象：レポート】
- 11、12回目課題（事前）：一次救命処置（BLS）に関する動画視聴 【自己学習】
- 13回目課題（事前）：術後（傷害期）に起こりうる侵襲の影響と合併症 【評価対象：レポート】
- 14、15回目課題（事前）：術後1日目の全身状態の観察方法 【評価対象：レポート】

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護師として実務経験、特に集中治療室をはじめとし周術期看護、老年期の看護の経験がある。また、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義および演習を行う。